



とのあいだに、大矢野橋（二号橋）が架かっている。

トルゲートの左側には、四、〇〇〇平方メートルの駐車場が用意されている。駐車場を降りると、大矢野橋は目の前にある。クリーム色にいるどられたランガートラスの鉄橋が、対岸の永浦島の緑に映えて、虹のように美しい。

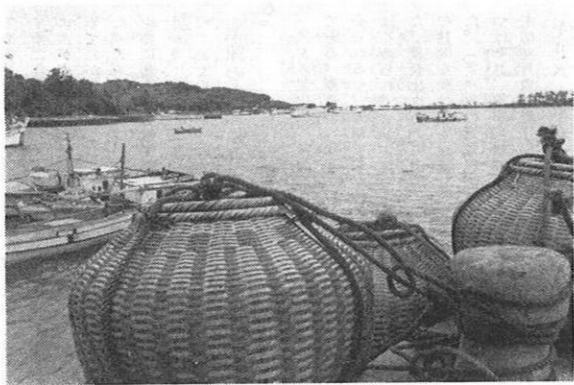
道路の右側の小高い丘に登ると、永浦島のなだらかな緑を越えて、天草島の主島、上島・下島の全貌が、夢のように見渡される。

再びトルゲートで、一部線料金二〇〇円を払い、大矢野橋を渡って永浦島を通ると、行手に、天草松島の全景が広がる。静かな内海に、無数の小島が点在し、真珠養殖のブイが、幾何学的な文様を描いている。まさに、パールラインに

ふさわしい眺めである。その中央をつらぬいて、中の橋（三号橋）と前島橋（四号橋）が、ゆるやかなカーブを描いて走り、コンクリートの表皮を、海面に映している。

海面を走る中の橋・前島橋
車は、滑るように、中の橋から大池島・池島を通り、前島橋を渡って、前島に達する。

このあたりは、雲仙天草国立公園の特別地域に指定されている。したがって、橋の形も、自然の美観をこわさないように工夫された。中の橋は、海中に橋脚を立て、橋脚と橋桁は、一体的にコンクリート打ちされている。重量を軽くするため、中は空洞になっており、橋の下を大型船が通れるように橋桁はかなり反り気味に作られ、五橋の中で、もつとも優美



国産の展示即売場なども見つけられる。

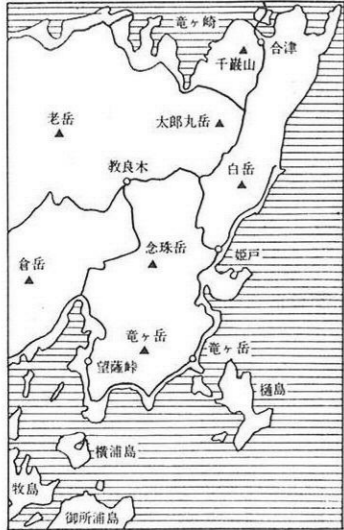
博覧会場の後方には、町営の国民宿舎が完成まじかである。鉄筋三階建て一〇〇名は楽に収容できるという。三階は円形大浴場になっており、お湯にひたりながら、夕映えの天草五橋を眺めることができる。開館は十一月の予定。

朱色に輝く松島橋

さて、博覧会場を後に、前島を通り抜けると、天草五橋最後の松島橋（五号橋）である。パイプアーチの優美な姿が、朱色の影を海峡に映して、眼のさめるような美しさである。この橋の下を、島原行きフェリーボートが走る。

松島橋を渡ると、すぐ右側に、約四百平方メートルの車寄せがあり、いま渡ってきた松島橋をかえり見ることが出来る。道はそこから、大きく左に折れ、やがて合津の町中にはいる。その途中に、九州商船のフェリーボートの発着所があるが、ここから、七〇〇トの航送船が島原、松島間を結び、また、天草

＜上島東部周遊コース＞



松島めぐりの遊覧船も、ここから発着する。

合津港の公共棧橋前の商店街を過ぎたところから、道は、海を埋立ててつくったバイパスにはいる。この道の内側に、

八、八〇〇平方メートルの埋立地が造成されており、これは町営の無料駐車場である。ここも、将来は一部を緑地化し、駐車場のほか、休憩所や、売店、便所などの施設が整備される予定だ。

な姿をしている。前島橋の海面からの高さは九メートルで、五橋の中でもっとも低く、海の上をはうように走っているのが印象的である。また、永浦島、大池島、前島には、道路公団が、四カ所に駐車場を設けている。まず永浦島には、道路をはさんで、約七〇〇平方メートルの路側駐車場、大池島には道路の右側に約一、〇〇〇平方メートル、次に前島橋を渡って前島には、道路の右側に一、〇〇〇平方メートルと八〇〇平方メートルの駐車場が、二カ所に分けて設けられている。

駐車場のまわりには、シュロヤワシ

本渡市の殉教公園、ここからは本渡港がすぐ下に見える……



トニアなどの亜熱帯樹が植えられ、天草松島の自然に、南国的な風情を添えているのである。

前島橋を渡ってすぐ左下の浜辺に、二万八、〇〇〇平方メートルの埋立地が造成され、天草架橋完成記念大博覧会が開催されている。

公団六号道路から、会場への取付道路を下りると、まず三、三〇〇平方メートルのキングスペースがある。正面アーチの奥にテマ塔がそびえ、クリンタン館、旅と観光館、天草五橋と郷土館、近代交通館など、一七の会場が立ち並び、子供たちが喜ぶ子供の国、天草土産など、全

ユニークな展望の天草松島

車に疲れた人々は、ここに車を止め、対岸の中島亜熱帯植物園に遊ぶのもよい。

中島植物園は、一七万平方メートルの敷地に、一二〇種類、一〇数万本の亜熱帯植物を植え、全島を園地化したユニークな有料施設である。中の橋および前島橋を、真横から眺められる地点にあり、縦横にはりめぐらされた遊歩道を、南国ムードにひたりながら、散策のひとときを過ごすには、最適な場所である。

ユニークな展望といえは合津港の棧橋近くから、登山道路を車で、千巖山に登るのも、欠くことのできないコースだ。

山上駐車場に車を置き、五〇〇メートルほど登ると、展望広場につく。ここからは、天草松島が箱庭のように、眼下に見渡される。さらに、天草五橋はもとより、遠く雲仙岳、有明海、八代海、九州山脈の山々など、一望の下に納めることができる。

人々は、天草の美しさに感動するだろう。しかし、ここはまだ、天草島のほんの入口に過ぎない。ほんとうの天草の姿は、ここからさらに西へ、天草上島・下島の、人里はなれたところにひそんでいるのである。また、海の国立公園天草の指定地域も、ここからさらに南へ、姫戸、竜ヶ岳、御所浦の海沿いに、牛深の方まで広がっているのである。

＜本渡市＞



時間に余裕のある人は、松島から姫戸を経て、八代海の海岸沿いに竜ヶ岳を廻り、松島町の教良木を経て再び合津に帰る上島東部周遊コースをとるのもいいだろう。車で二時間あまりのコースである。

姫戸から、八代海の海沿いに南へ下ると、竜ヶ岳である。対岸の樋島に橋を架けて、観光開発をする計画があるが、実は少し先きのことになる。ここまで来ると、離島の中の離島、御所浦の島々が、手に取るように見えてくる。

竜ヶ岳の岬を廻り、道はやがて北に転じて、倉岳町の境の山越えにかかる。ここが望峰峠である。峠から見下す海は、鏡のように静まりかえり、御所浦の島々が遠く鹿児島県の獅子島のあたりまで重なり浮び、天草松島とは違った、自然のままの雄大さを感じさせる。

殉教のキリシタン

合津から、国道二六六号線を西へ、天草上島の北岸を有明海に沿って走ると、約四〇分本渡市につく。その途中、天草五橋を西から眺める有明町楠浦の竜崎にも、海に突き出た岬を総合的に開発す